

SHINGON HORONIC

色は匂へど

IRO

WA

NIO

E

DO



特集 黒木靖夫とソニーデザイン

平成十五年長月一日発行 卷二十八



荷露心をみがき
竹霜思いを凝らす

荷露は蓮の葉の露で
心の清廉を表し

竹霜は竹の葉の霜で
節操の正しいことを表す

過剰な言葉と過ぎたる欲を
顯わにする者は見苦しく

控えめな言葉と

微笑みをたたえる者には
道が開く

編集主幹

阿部龍樹

特集

黒木靖夫とソニー、デザイン

書の曼荼羅世界展

3



9

心の絵言葉

匂い盗人（ジャーナタ力物語より）



17

情報コーナー



1



11

お釈迦様真理の花束



15

現代の道しるべ



14



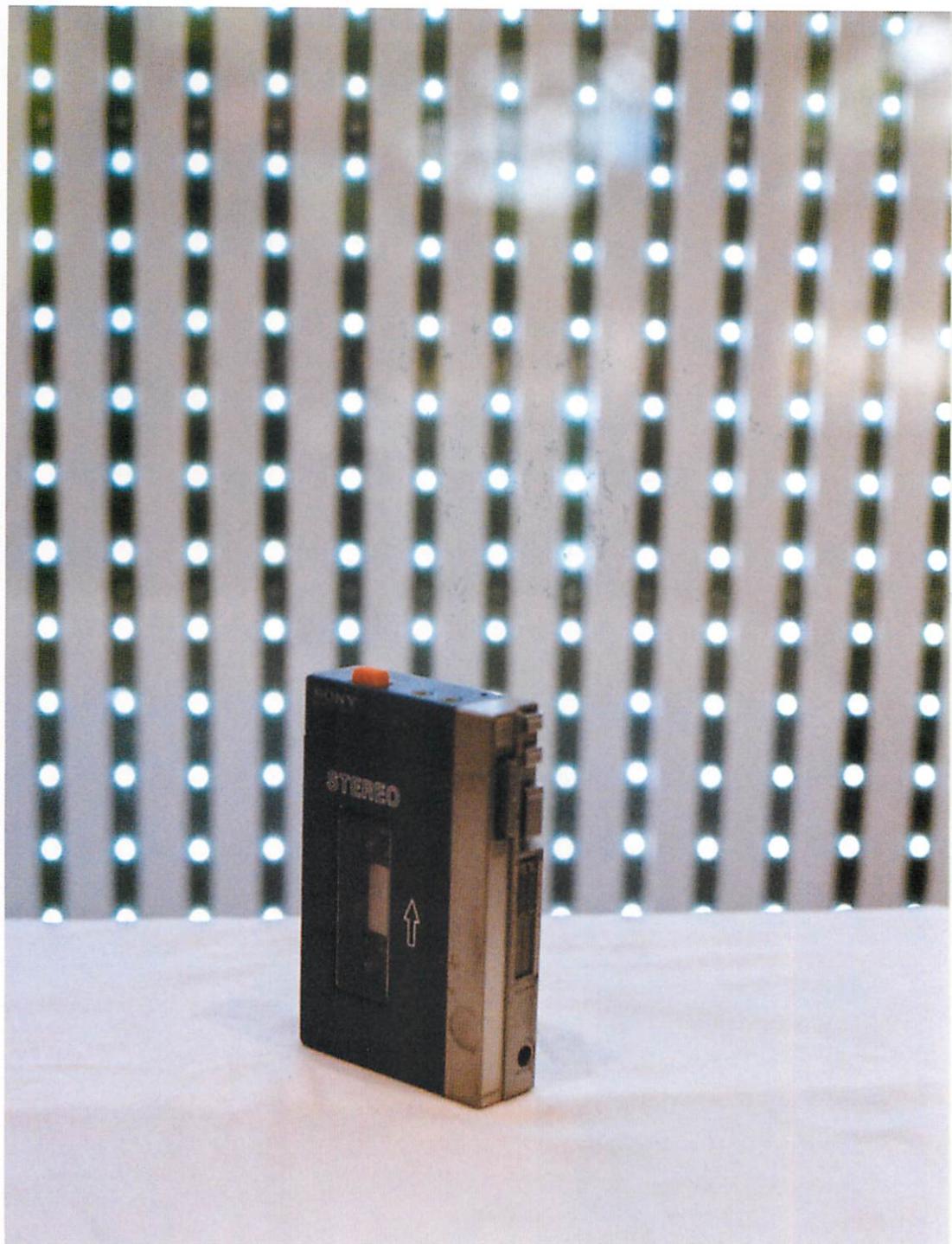
黒木靖夫氏

1932年生まれ 千葉大学工学部工業意匠科卒業

1960年ソニー入社

国内外の宣伝を手がけ、また数寄屋橋ソニービルなど
数多くのショールームの開設を手がける
テレビモニターの新しい境地を開いたプロフィールや
ウォークマンという戸外に持ち出せる音源を世に送り
出す。

クリエーティブ室長を経てソニーの取締役に就任。
しかし60歳になって退社し、黒木靖夫事務所を開設。
昨年のサッカーワールドカップの際、機動隊の警備用
の盾デザイン。
軽く丈夫でしかも透明で持ちやすい画期的な作品。
池田小学校の事件以降、学校や幼稚園などで採用され
ている。



今や伝説となった初代ソニーウォークマン

今触れても手に馴染む操作性のいいデザインと、持つ者をわくわくさせる質感がある



文庫本と変わらぬ小さなサイズに美しいステレオ音響をヘッドホンを使って再生させる。使い勝手を考えた本革のケースもついていた。

六〇歳で独立

私は六〇歳でソニーの井深と森田に辞表をだしました。前代未聞のことですいぶん驚かれました。私は取締役でしたが、役員でいれば車も秘書も専用の応接間もありました。安泰安穩として余生は送れるわけです。一般の人は六〇歳が定年ですが役員には明確な規定はありませんから。みんなと同じように六〇歳で辞めたいと言いました。ソニーが嫌いじゃない、でも精神的にも肉体的にも今なら独立できると思いました。

ウォークマンと二十一世紀

ウォークマンは当初社内で反対が多くつた。しかしこう発売すると大ヒットになる。それまで家の中でしか聞くことが出来なかつた音楽を、自分の好きな曲を好きなときに好きな場所へ連れていくことにみんな飛びついた。音を連れ出す自由がある。それまではステレオは家庭の中に鎮座していて、家族みんなで聞くか、一人で聞く場合は家族に気を使つたり、ヘッドホンをつけ音が漏れないように聞いていた。ウォークマンはまさしく時代の先駆けで、それは二十一世紀のパラダイムを示していたともいえる。

昔は大型のホストコンピューターに、オフィスコンピューターが繋がっていた。繋がっていないと仕事にならない。つながり方に上下関係、力が支配していた。

会社もそうだ。大きな本社があつて支社があつて販売店があつて、やはり繋がつていないと商売にならない。上下関係、力関係が支配していた。ところがウォークマンが音を外に連れ出したように、今ではコンピューターも街に持ち出し、電話も携帯によつて世界中で使えるようになると、上下の関係性や力での支配とかが無くなる。インターネットの普及で世界中の気の合う仲間が瞬時に繋がり連絡がとれる。必要なプロジェクトごとに人が集まれば、新しい仕事を開発したり企業を興すことも出来る。大きな会社はその大きな組織を維持するためには、実に多くの負担がかかる。その上決定したことが、動き出すまでに時間がかかる。

イタリアに学ぶ

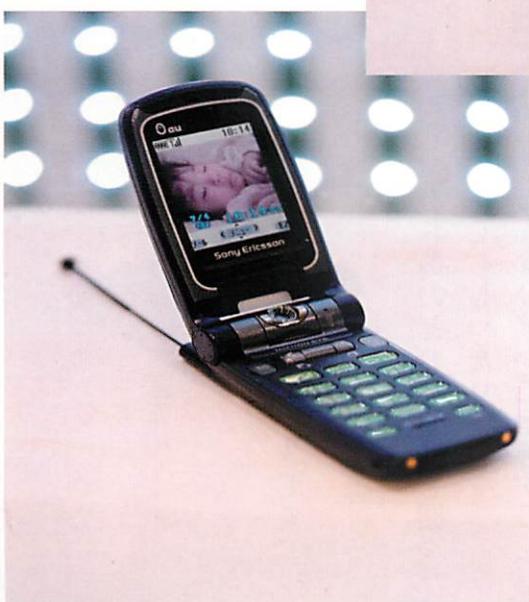
たとえばイタリアです。政治も経済も良くはないけど、格付けは日本の方が下です。イタリアには名だたる大企業はほとんどありませんね。しかし物づくりでは素晴らしい物が沢山あります。ミラノは人口一八〇万。一社平均六・五人という小さな会社が二十五万社もあって、それがイタリアのGDPの二十%を稼いでいます。コンピューターを使ったハイテクは無くデザイン学校もありませんでしたが、紙と鉛筆といったロー・テクで凄いデザインを作り出します。デザインは学校なんかでは学べません。感性のものですから。



今見ても未来的なトリニトロンカラーテレビ。

日本の再生は遊び心と日本人の持つ感性を生かすことです。日本人の味覚、触覚、聴覚は欧米人より並はずれて優れています。この感覚は数値化出来ます。一方感性は数値化できない。聴覚は何万ヘルツが聞こえるとか、聞こえないとか数値化出来ますね。感性は磨くしかないんです。

その方法は、良い音楽を聴いたり、良い絵を見たり、美味しい物を食べたり、そうした経験の総合が感性に繋がるんですね。そして遊び心。日本の琳派の人たちは素晴らしい遊び心を持っていましたね。そして民度も重要です。民度がないと技術移転が出来ません。技術や文化も土着化できない。日本は漢字を日本語読みすし、仮名や片仮名を発明します。この仮名が無いと今の日本は無いですね。文字は空海の風信帖です。そこから日本の文字が根本から変わったと思います。筆の持ち方なんかもね。感性という言葉は英語にないから、これからは感性の時代ですね。また物づくりを海外に移管しないこと。イタリアは絶対に海外に仕事を出しませんね。そして職人を育てること。日本では国の資格制度にしようとしてますがイタリアは資格ではなくて尊称です。腕がよければ自然と人々からそう呼ばれる。徒弟制度から生まれます。日本では薬師寺の塔を造られた西岡棟梁の世界です。日本にはまだ素晴らしい可能性がありますね。



携帯も手に馴染む独特の形状とデザインの美しさを併せ持つ。

このソニーから新しいブランド、クオリアが発表された。海外では作ることが出来ない質の高い、国内のマエストロと呼ばれる優れた職人が一人で組み上げるモニターや、高い質感をもつデジタルカメラ、CDプレーヤーなどが発表された。高くても手に取る人や持つ者がワクワクするような、魅力を備えている。日本の物づくりの素晴らしいと凄さを再発見できる。

匂い盗人

絵 美香



むかしむかし菩薩はベナレス国のあるバラモンの家に生まれました。あらゆる学問を修め、出家してお坊さんにになりました。旅の途中に美しい蓮池を見つけました。おりから花盛りの蓮からは麗しい香りが広がっています。

お坊さんは池の周りを歩きながら蓮の花の香りを楽しんでいました。

すると一人の女神が木のうろから現れて、こういました。

じぶんのものでもないくせに蓮のにおいをかいでいる
それは盗みとおなじです
あなたは匂いを盗みます

ちょうどその時、一人の男が蓮池に
すかずか入つていって、蓮根を沢山
とつたり、蓮の花を折つては摘んで
います。

お坊さんは女神にいました。
あれあのとおり蓮根を掘つたり
花をむしつたり
あんなひどいことをする
人には何も言わぬのか
女神は

赤子のまえかけそつくりに
汚く汚れた人ならば
私はなにも言いません
あなたはそれと違います
けがれを離れいつもまた
清きを願う人だから
毛先ほどのあやまちも
黒雲ほどに目立ちます



それを聞いてお坊さんは深く感じ入つて、いつそう修行をはげみ、清らかさを保ちました。お坊さんを見ると周りの人も自然と、心が清くなると思えるほどです。いつも人々のよき手本となり、やがて天上のブラフマンという神々の世界にうまれかわりました。

ジャータカ物語はお釈迦様の前世の物語です。お釈迦様の前世は猿の王や金の白鳥やときにはかわいいウサギなど様々な生き物でした。そして多くの善行と徳を積み重ねたのでやがてお釈迦様となりました。ジャータカ物語には日本の童話やイソップ物語のもとになるお話も多くあります。親が子供に読み聞かせるのも最適です。

美術指導 小原洋子先生

書の曼荼羅世界京都展

ご挨拶をされる加藤達成前京都佛教大学教授



テープカットをされる濱野堅照前真言宗豊山派管長
はじめ真言宗各派の重役の方々



『弘法大師墨蹟聚集』全七秩が完成し、昨年東京銀座鳩居堂で展覧会が開かれた。そのときたまたま東京に来られた加藤達成前佛教大学教授が鳩居堂を訪れた。店内に貼ってあつた、展覧会のポスターを御覧になられて来場された。ご自身が（財）日本書写技能検査協会理事であり、佛教大学京都四条センターで大勢の人たちに書道の指導をされているので書のことも書法のことも当然ながら実際に詳しく、日本の歴史の中でも大切に受け継がれてきた墨蹟の尊さを深く理解されている。

その加藤教授が会場を一巡して感銘を受けられ「実に素晴らしい事業をされていましね。歴史の中で失われていく貴重な書も多くの、また今に伝わっていても繙くこともできない書が多い今日です。ことに弘法大師は日本の書道の原点であり、その真蹟がこうしていながらにしてすべて拝見できるとは思つてもいませんでした。しかも原寸カラーで。長い巻物も継ぎ目なく装丁され、弘法大師が書を書かれた時のリズムが伝わってきますね。全く今までにないことですね。是非私も会員として申し込みますが、この展覧会もぜひ京都でも開いていただきたい。」

『弘法大師墨蹟聚集』という前代未聞の大事業が完成し「書の曼荼羅世界」展を御覧になつた方によつて、新たな縁が動き出しました拡がり「書の曼荼羅世界京都展」が開かれた。



東京銀座鳩居堂で展覧会が開かれた。そのときたまたま東京に来られた加藤達成前佛教大学教授が鳩居堂を訪れた。店内に貼ってあつた、展覧会のポスターを御覧になられて来場された。ご自身が（財）日本書写技能�査協会理事であり、佛教大学京都四条センターで大勢の人たちに書道の指導をされているので書のことも書法のことも当然ながら実際に詳しく、日本の歴史の中でも大切に受け継がれてきた墨蹟の尊さを深く理解されている。



東京会場より広い、京都博物館のワンフロアー全て使いきつて、はじめて『弘法大師墨蹟聚集』の全てを開いて展観する事ができました。会期中には次の講演会も開かれた。さらに奈良西大寺でも展覧会が開かれた。

竹内信夫東京大学教授

『茶湯坐し來たつて忽ち震旦の書を見る』

阿部龍文墨蹟聚集刊行会責任監事

『書が織りなす人と書の「ドラマ」』

西宮紘精神文化史研究家

『弘法大師書とその思想』

砂原秀遍東寺寺務長

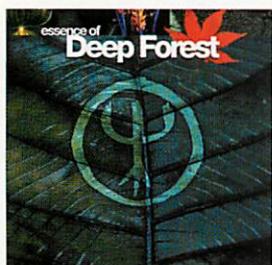
『弘法大師のお心』



います。この日は三味線の都さんが『猩々（しょうじょう）』を演奏されて絶品でした。猩々という曲は正直者が得をする話です。むかし中国に、高風というとても正直で親孝行な男がいました。不思議な夢のお告げに従い、揚子の市場に出て、酒を売って富貴の身となりました。しかし高風は変わらぬことなく毎日市場で酒を売っていました。その店に毎日一人の童子が来て酒を買って飲みます。その有様が不思議なので、名を尋ねると海中に住む猩々と名乗り、酒壺を抱いて海中に帰っていました。高風は壺に酒を満たして潯陽の江に出て、猩々の出てくるのを待ちました。猩々は海上の波間を走り来て酒を飲み舞を舞い、高風の富を得ても変わらぬ、心の明らかさ正直さに感激して、高風に汲めども尽きない酒壺を与えたという話です。この曲の中で猩々が海上の波間を走り高風の持つ酒を飲みにくるところは、お能などでも見所の一つですが都さんの三味線は見事にその情景を三本の弦で表していました。

さて今年のフィギュアスケート世界選手権は女王ミッシェル・クワンが見事五回目の優勝を飾りました。その時の音楽が川井郁子さんの『レッドバイオリン』でした。その模様をビデオで見ましたが、クワンの演技も完璧ながら川井さんのヴァイオリンとのマッチングが実に素晴らしい二つの才能がぶつかり合い響き合ってスケートリンクを支配していました。観客も全員が総立ちでクワンの眼には光るものがありました。聞くところによると、クワンは長年一緒だったコーチやスタッフも全部変えて、新しい仲間とともにチームを作り、その中で世界中の音楽から自分に合う曲を探し続けたそうです。クワンのスピード、優雅さ、回転に合う音楽を。そして出会ったのが川井さんのレッドヴァイオリンだったそうです。この曲を聴いてクワンは今後二年間この曲だけで行くと決めたそうです。来年にはワシントンで川井さんとクワンとのコラボレーションも実現するそうです。

良い音楽は人に多くの影響を与えます。勇気づけたり、悲しみを慰めたり、時には病さえ治したりもします。21世紀はますます音楽の重要性が高くなります。



レッドヴァイオリン
はアルバム『レッド
ヴァイオリン』
に収録されています

DEEP FOREST 一中節

問い合わせ 都一中

SONYMUSIC 問い合わせ

WWW.itchu.com

INSTINCT

IKUKO KAWAI

お問い合わせ

ビクターエンターテイメント

現代の道しるべ 菩薩の道

正直者が得をする社会に！

最近は道で寝ころびふざける者を注意した人たちが、逆に殴られ傷つけられ殺されたり、混んだ電車内で「奥に詰めて下さい。」と言っただけで因縁をつけたと言われ殺されたり、車内のマナーをとがめられた者が逆上して、相手を殺してしまうといった非道い事件が多くなりました。正しいことを言った人間が逆恨みをされたり、逆に嘘偽りを語ったように喧伝されたり加害者のごとく言われ社会的に抹殺されてしまうことさえあります。こうしたことは社会の悪しき風潮の現れであり、さらに悪い流れを作っています。社会にモラルの境界、善惡の結界をしっかり構築することが先決です。個性の尊重とは何をやっても良いということとは全く違います。自分らしくが自己中心でいいということではありません。また社会で最も影響力のある政治家は一般人以上に厳しく自らを律すべきでしょう。発言も出処進退も社会の範となる行動をすべきです。大学生の一サークルが起こした事件での太田議員や国家のスポーツマンたる福田氏の発言は言語道断です。早稲田大学のモットーは国民の模範たる人格の形成であり、慶應大学のモットーは気品の源泉と知徳の模範です。

12歳問題。一方長崎の事件はまだ記憶に新しく「腐りかけた社会の象徴」といった社会環境に原因をもとめる論調もありますが、私はこの問題は社会環境より先ず本人の責任そして家族です。中学校の先生が謝罪していましたが、学校の責任にするには無理があります。鴻池議員の発言は加害者の人権が手厚く保護される一方、被害者の個人情報は世間を駆けめぐりさらし者になる今日の風潮を戒め、勸善懲惡、正直者が得をする社会にしたいということでしょう。またこうした事件に誰も責任をとることが無い現状が、社会全体のモラルのさらなる低下を憂うものもあります。今回の事件は事前にいくつかの事件があり、その事件情報が、学校や大型商業施設、商店街などの地域社会にもっと早く警告の形で出されていれば未然に防げた可能性が高いと思います。紙面が限られているので詳しく書けませんが、11歳から13歳という年齢は子供から大人への極めて脆く危険な心の変わり目で深い闇もあり光もかいま見る年齢で、思春期前に訪れる初春期ともいえる大きな転換点です。仏教の多くの祖師がこの年代に大きな転機を迎えていました。梅尾の明惠上人は13歳の時「もう13歳になってしまった。年老いて死期も近づいたから油断せず修行研鑽しよう。」と書き残しています。江戸時代に十善戒を説き広めた慈雲尊者も11歳で大きな転機を迎えていましたし、真言宗中興の祖興教大師も13歳で転機を迎えていました。世界中の伝記から人々の、この年代11歳から13歳ぐらいの出来事を集めてみると興味深い結果が出ると思います。小学校と中学高校の年齢構成も見直すことも必要です。虚空蔵菩薩に祈りを捧げ自身の健やかな成長を願うのを十三参りと言い古来から大切にされています。

先日知人のFさんの案内でDEEP FORESTのモーケさんご夫妻とヴァイオリニストの川井郁子さん、そして三味線の都一中さんがご子息とともに等々力不動尊に来られました。DEEP FORESTというグループは世界中の原初的な音を訪ね蘇らせ新たな生命を吹き込んだり、日本の簫篥（ひちりき）や尺八の音も巧みに使われています。けして奇をてらうことなく、地球に溢れる音から、新しい音楽を構築して宇宙に再び響かせるような深みある音楽です。最近では元ちとせさんの音楽もプロデュースされて

お釈迦様真理の花束



Here he grieves, hereafter he grieves, in both worlds the evil-doer grieves .He grieves and perishes,seeing his own impure deed.

Here he rejoices,hereafter he rejoices, in both worlds the good-doer rejoices. He rejoices, exceedingly rejoices, seeing his own pure deed.

見	彼	行	造	見	彼	行	造
福	喜	善	喜	罪	憂	惡	憂
心	惟	両	後	心	惟	両	後
安	歎	喜	喜	畏	懼	憂	憂



悪しきことをなす者は

ここに憂い かしこに憂い

二つながらともに憂う

おのれの

けがれたる振る舞いを見て

彼は憂い 彼は悩む

善きことをなす者は

ここに喜び かしこに喜び

二つながらともに喜び

おのれの

清らかなる振る舞いを見て

彼は楽しみ

彼は喜ぶ



最近、日本の歴史を著す良い本が出版されています。日本の中世はいわゆる鎌倉新仏教が生まれ、芸術文化が百花繚乱と咲競い、平安の末から朝廷、貴族、源平の武士達が入り乱れて権力闘争を繰り広げ、京の都をその戦場としたり、南都奈良の興福寺や東大寺が焼かれ貴重な建造物宝物経典などが焼かれてしまいました。

鎌倉時代には後鳥羽上皇などが壱岐の島に流されるという実質上のクーデターが起こったり、蒙古軍が来襲したりと激動の時代でした。さらに鎌倉時代から室町時代に移るとき、つまり源、北条政権から足利政権に権力が移るときも日本中で激しい争いが繰り広げられました。後醍醐天皇は自らの皇子達を東北や九州に派遣し地方から兵を起こして建武の中興を実現しようしました。

後醍醐天皇は足利尊氏に敗れ吉野に南朝をたて、尊氏の北朝に対抗します。こうした歴史の激しい争いを起こすエネルギーの根源が何処にあったのかはとても興味がもてます。

ここに紹介する二冊の本はそれぞれ別な角度から日本の核心を著しています。

松岡正剛氏の『山水思想 もうひとつの日本』五月書房は日本の歴史の縦の時空も横の時空も驚異的にして、さらに当時の人々の消息から歴史を語り尽くすのは松岡さんの独壇場です。雪舟と等伯二人の日本画の巨人が発見した日本とはなにかを「山水思想」をキーワードに解き明かしていきます。京都の町衆、法華宗の動きと信長や念佛宗との争いなどが生き生きと蘇ってきます。

ドナルド・キーン氏の『足利義政』中央公論新書は足利義政を中心にその時代を濃密に検証します。氏は日本の美意識を「暗示」「不均整」「簡素」「果敢なさ（はかなさ）」を重要な四つの要素ととらえています。応仁の乱という激しい戦争の中で文化は不毛ではなく、この無能な将軍義政によって花開いていきました。

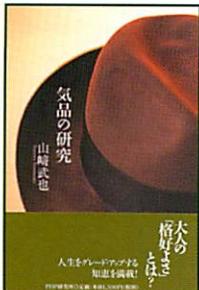


『空海 言葉の輝き』 竹内信夫 ピエ ブックス

空海ほど日本の芸術文化はもちろん宗教にも偉大な足跡と影響を与えた人はいません。今年は、その空海が唐へわたった年からちょうど1200年の歳月が流れました。空海の言葉には今繙いても、心に深くしみ入る、美しい言葉が多くあり、その美しい言葉を永坂嘉光氏の写真とともに紹介する本書は、空海の存在した時空に誘なう好編です。



時は過ぎ、世は変わってし、今も人の心に生きて輝く
空海の言葉と高野の映像



『気品の研究』 山崎武也 PHP

経済的な結果だけを求める時代。その金銭の多寡だけで人格まで評価されてしまいそうな時代ですが、金銭的な結果だけを求める姿には『気品も美しさ』もありません。近年とみに政治家の相が悪くなつたと感じますが、この本を読むとその理由がよくわかります。政治家、学校の先生、医者、弁護士、銀行家、全ての人に絶対読んで欲しい一冊。



『元気に老い、自然に死ぬ』 秦恒平 山折哲雄 春秋社

対談には素晴らしいものが沢山あります。しかし同時に両者の器量も明らかになり、深さや考える次元の奥行きまでわかることがあります。怖さもあります。

秦恒平氏の深い思索の領域に「老い」の真実の姿が明らかになっていきます。



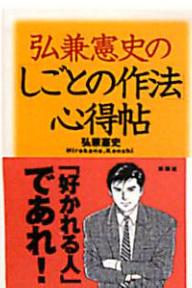
『ひとツボ健康法』 熊崎有一 栄 小町 アントレックス

人類は様々な健康法や医療を古来から伝えてきました。極寒の地、チベットなどでは肌を露出できないので、指先のツボなどを刺激して痛みを和らげたり、病を治す方法を創り出しました。一方温かく、花も香料もふんだんにあるタイなどでは全身に対するマッサージが創られ、香料と合わせた施術もとても心身に有効にはたらきます。本書は文庫サイズでスポーツや旅行に携行しやすく、ツボだけではなく香料やハーブティーなどの解説もあり親切です。



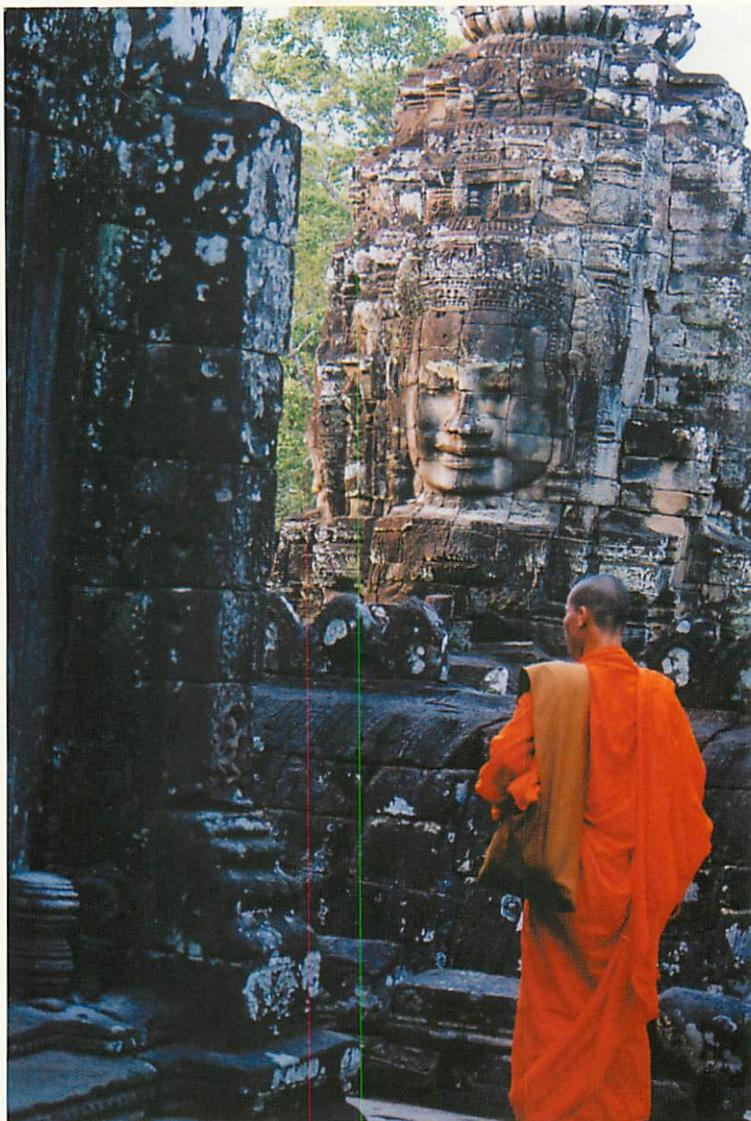
『ティーンズメール』 朝日新聞学芸部編 教育資料出版会

10代の心の揺れは誰にでもあります。その10代の率直な問いに6人の賢者が正面から答えていきます。10代の子供達の心が見えてないと嘆く大人も、自らが10代の人たちもぜひ読んで欲しい一冊です。



『弘兼憲史のしごとの作法心得帖』 弘兼憲史 親講社

最近、仕事の基本的な作法、マナー、エチケットが気になることが多くなりました。貸した物が返ってこない。人を紹介して欲しいと言われ、先方にも連絡をしておいても、何時まで経っても先方へおもむかない。確認をすると「もう他の人で用は足りました。」等あきれることが多くなりました。仕事の作法を再発見できる好著です。



次号特集 アンコールワットの魅力

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer SHU FUJIWARA Editorial Staff SAMURO MIWA TOKUMARU KOJI MOTOYAMA
KAZUFUMI Ooyama CHIGUSA SHIMAZU RYUTOKU KAWASAKI YUKIKO KAWAMURA KAZUYA
HOMEPAGE DESIGN MASAHIKO OKA HIROYUKI HANAWA Making Mechanic SANMITUSHA+SHOEIDO Printing KORINKAKU
EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C

〒158-0082 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話 03-3705-1622 ファクシミリ 03-3703-4979

Shingon Horonico Irowanioedo 第一巻第二十八号 平成十五年長月一日発行

R100